

3. クッカルとカラス

むかしむかし、カラスの羽は今の様な真っ黒ではなくて、赤い羽毛に紫や青緑の混じった、それは美しい色でした。

他の鳥はみんな、そんなカラスをうらやましがっていました。

特に、クッカルは、

「あーあ、おいらの着物は真っ黒なばかりで面白くない。一度でいいから、カラスさんの様な美しい着物を着てみたいな」

と、思っていました。

クッカルというのは、カラスによく似たくちばしの長い鳥です。

そこである日、クッカルはカラスを騙して着物を取ってやろうと考えました。

そこでさっそく、カラスのところへ出かけて行って、

「カラスさん、今日は暑いから水浴びに行こう」

と、誘いました。

するとカラスは、

「それはいいな。よし、行こう」

と、言って、二人は森の奥の沼に出かけたのです。

そして、それぞれは自分の着物を脱いで、ザブーンと水に飛び込みました。

天気が良くポカポカと暖かいので、水浴びの好きな二人はとても楽しく遊びました。

ところがしばらくすると、クッカルは、

「ありゃー、大事な用事を思い出した。すまないが先に帰るよ」

と、言って、帰ってしまいました。

一人残されたカラスは、

「あーあ、もうちょっと、一緒に遊びたかったのに」

と、ぶつぶつ言いながら水からあがって着物を着ようとしたのですが、ところがどこを探しても自慢の美しい着物はなく、そこにあるのは真っ黒で汚い、クッカルの着物だけだったのです。

「ややっ、さてはクッカルのやつ、おいらの着物を着ていったな」

カラスはクッカルに騙された事を知りましたが、もうどうしようもありません。

それで仕方なく、クッカルの着物を着て帰ったのです。

それからというものカラスは真っ黒で、クッカルはきれいな羽をつけているのだそうです。

そしてカラスはクッカルが憎くてたまらないので、今でもクッカルを見つけると目の敵にして追い回すのだそうです。